



「御所浦と産山の児童交流“楽しい思い出づくり”」

8月6日、阿蘇郡産山村の小学5・6年生28人が御所浦地区を訪れ、同地区の小学5・6年生64人と交流を深めました。これは、旧御所浦町と同村が昭和63年に友好宣言して以来、毎年交互に訪問し、交流しているものです。当日は、対面式で児童自らが制作したプレゼントを交換した後、ゲームやバーベキューなどを行い、楽しい思い出をつくりました。

主な内容

- 企業の元気は“天草”の元気!..... 2~7
- 行政改革の取組状況..... 8~9
- 夏の思い出 in 天草 2008..... 10~11
- 宝島の話..... 12~15
- みんなの広場..... 16~19

平成20年

9

1

No.58

企業の元気は「天草」の元気!

天草の活性化に向け「天草地域産業・雇用創出協議会」設立



誘致された自動車部品工場
(熊本部品株)

厳しい雇用状況が続く天草。平成19年の有効求人倍率を見る
と、本市と苓北町は0.41倍で、熊本
県平均の0.82倍、全国平均の
1.04倍を大幅に下回っています。
このような雇用状況を改善する
ため、市や苓北町、地元の経済団
体などが7月28日、「天草地域産
業・雇用創出協議会」を設立しま
した。同協議会では、天草地域の
雇用創出を図るため、「企業誘致」
と「地場産業の振興」に取り組ん
でいきます。

今号では、天草地域の雇用状況
や同協議会の事業内容、事業所・
企業アンケートの結果、本業のほ
かに新たな取り組みを展開してい
る企業などについて紹介します。
※注・有効求人倍率：公共職業安定
所に申し込まれている求職者数に
対する求人数の割合。求職者1人
に対して、どれだけの求人(職)
があるかを示したものです。

天草地域の 厳しい雇用状況

天草地域(天草市・苓北町)では、
厳しい雇用状況が続いています。
天草地域の有効求人倍率(グラ
フ1)を見てみると、平成15年は
0.35倍で、その後、同19年には0.
41倍とわずかに上昇しているもの
の、低い数値で推移しています。
一方、熊本県平均は0.49倍から
0.82倍に、全国平均は0.64倍
から1.04倍にそれぞれ順調に上
昇しており、天草地域との雇用状
況の格差が拡大しています。

また、市内の高校生の進路状況
(グラフ2)を見ると、平成19年
3月に卒業した937人のうち、
天草島内に就職した人はわずかに
63人(6.7%)となっています。
高校生からは「地元で就職したい」
との声も聞かれますが、天草には

天草地域産業・ 雇用創出協議会を設立

雇用の場が少ないため、島外に就
職せざるを得ない状況です。

市や苓北町、地元の経済団体な
どが7月28日、天草地域の雇用状
況を改善するため、「天草地域産
業・雇用創出協議会」を設立しま
した。

同日、市内のホテルで開かれた
第1回の会議では、「天草地域産

業・雇用創出事業構想(案)」に
ついて協議され、原案のとおり承
認されました。同事業構想は、熊
本県の委託事業として実施するも
ので、今後、天草の地理的条件を
踏まえて、「ターゲットを絞った
企業誘致」と「新規事業の展開や
新商品・新サービスの開発などに
取り組む地元企業の支援」を行っ
ていきます。

なお、同協議会の会長には安田
公寛・天草市長が、副会長には田
嶋章二・苓北町長がそれぞれ選任
されました(各委員は左表参照)。

◆天草地域産業・雇用創出協議会委員 (敬称略)

役職	氏名	職名など
会長	安田 公寛	天草市長
副会長	田嶋 章二	苓北町長
監事	錦戸 保介	本渡商工会議所会頭
〃	川口 義英	あまくさ農業協同組合代表理事組合長
委員	益田 政昭	牛深商工会議所会頭
〃	鎌田 敏夫	有明町商工会会長
〃	堤田 守昭	御所浦町商工会会長
〃	金子 信之	倉岳町商工会会長
〃	嶋村 行雄	栖本町商工会会長
〃	船辺 修	新和町商工会会長
〃	崎本 弘訓	五和町商工会会長
〃	黒田 勝義	天草町商工会会長
〃	松尾 良司	河浦町商工会会長
〃	松尾 鐵治	苓北町商工会会長
〃	蓮池 肇一	本渡五和農業協同組合代表理事組合長
〃	澤地 茂	苓北町農業協同組合代表理事組合長
〃	浜 悦男	天草都市漁業協同組合長会会長
〃	藤本 一善	(社)熊本県建設業協会天草支部長
〃	中川 竹治	天草経済開発同友会会長
〃	荒井 勝彦	熊本学園大学経済学部教授
〃	大屋 善樹	熊本部品(株)代表取締役



▲7月28日に開催された第1回天草地域産業・雇用創出協議会

ターゲットを絞った 企業誘致に取り組む理由

天草地域は県内で唯一、熊本市
内から車で2時間以上かかる地域
です。このため、輸送コスト(費用・
時間)がかかる製造業などの誘致
は不利であるため、ターゲットを
絞った企業誘致が必要となります。

そこで、天草の恵まれた自然の
中で生産した農林水産物(1次産
品)などを加工し、付加価値を付
けて販売する、いわゆる「1・5
次産業」の企業誘致に取り組ま
す。

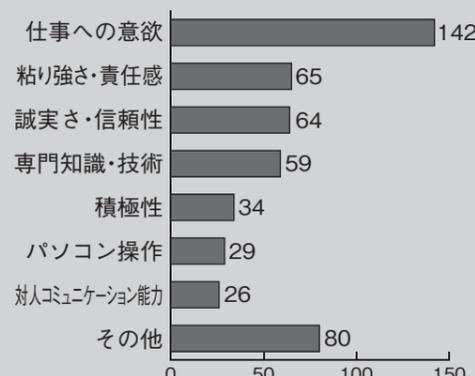
事業所・企業 アンケートを実施

市と苓北町では、天草地域の
各産業の現状と課題を把握し、
地場産業の振興などを図るた
め、「事業所・企業アンケート」
を実施しました。主なものにつ
いてお知らせします。

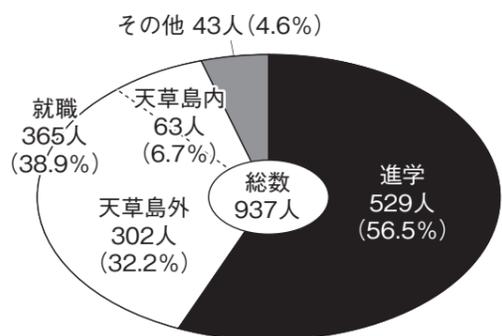
- ・実施時期Ⅱ今年5月～6月。
- ・調査対象Ⅱ212社(従業員
数が5人以上50人以内など、
一定の基準により抽出)。
- ・回答数Ⅱ186社(回収率
87.7%)。

【雇用JICJN】

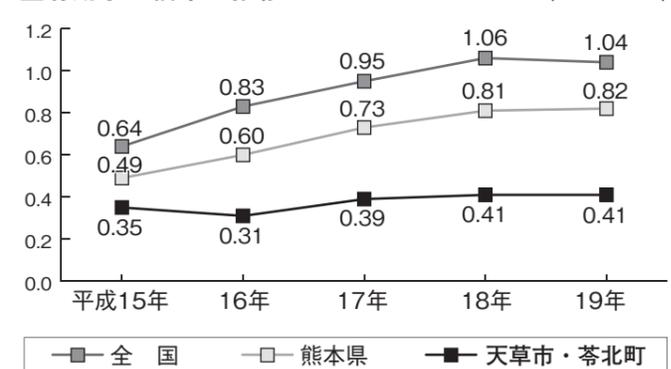
○採用する人材に求める能力
(30まで回答可)



◆市内の高校生の進路状況 平成19年3月卒業生 (グラフ2)



◆有効求人倍率の推移 (グラフ1)



また、市が実施している、市内の公共施設を光ファイバーで結ぶ広域ネットワーク事業の整備が今年度、完了する予定です。この光ファイバー網を活用し、天草でも東京や大阪などの都会と同じ情報通信環境で働くことができる「IT・サービス産業」の企業誘致にも取り組んでいきます。

地場産業の振興を
図るために

天草地域は、小規模な事業所や企業が多いことから、新規事業の展開など新たな取り組みをしたくても、その余裕がない状況にあると考えられます。

今年5月から6月にかけて、市と荅北町が実施した「事業所・企業アンケート」では、約65%の事業所・企業が、新技術や新商品、新サービスなどの研究・開発に取り組むみたいと答えています。しかし、これらに取り組むための国・県の補助や融資、経営相談などの支援制度があることを知っている事業所・企業は約45%にとどまっている状況です(下のアンケート結果参照)。

がんばる地場企業
新たな取り組み①

(有)エコ・アース
(建設業・新和町小宮地)

新和町の建設業(有)エコ・アース(西川一彦社長)では、土を使わずに屋上やベランダを芝生で緑化する「エコ・ペタン」を製造・販売している。この製品は、熊本県新事業支援調達制度に認定されており、熊本大学などでも屋上に設置し、室内温度差の測定実験に使用されている。材料は、保水性と軽さが特徴の天然シラスで、鹿児島県(桜島の火山灰)から取り寄せている。1枚の大きさは縦20cm、横28cm、厚さ3cm。最大保水時の重量は約36kg/m²。土が必要なた社の屋上緑化製品に比べ重量が半分程度で、施工も簡単。1m²(18枚)当たり1万5000円



▲「エコ・ペタン」(右)と「エコ・ポチ」(左)を持つ西川社長

(天然芝生は別)で、今年4月からインターネット販売を始めた。ほかにも、同材料で製造した、ポットに観葉植物を入れて育てる「エコ・ポチ」というかわい商品も取り扱っている。西川社長は、「緑を見て怒る人はいないから」と、環境関連事業の拡大を目指す。

産業・雇用創出
事業構想の取組内容

天草地域産業・雇用創出事業構想による「企業誘致」と「地場産業の振興」の主な取り組みの内容

は次のとおりです。

◆企業誘致

①ふるさと「天草」企業誘致促進事業

・1,000人ネットワークの構築
築:都市圏などに在住で天草出

がんばる地場企業
新たな取り組み②

(有)森商事
(木製品製造販売業・天草町高浜北)

熊本県新事業支援調達制度に認定されている木製学童机・椅子「あいちゃん」をはじめ、オーダー家具や遊具(滑り台やプール)・玩具(ドミノや積み木)など、多種多様なアイデア木製品を製造・販売している天草町の(有)森商事(森信行社長)。子どもたちの「木育活動」にも積極的に取り組んでおり、熊本市の産業文化会館の地下に「Forest Market」をオープンし、子どもが自由に遊べる積み木コーナーを設置している。

現在、熊本大学工学部と産業技術センター、(有)森商事が連携し、機能的な机の環境が大幅に



▲「あいちゃん」などのアイデア木製品を前にする森社長

熊本市の産業文化会館の地下に「Forest Market」をオープンし、子どもが自由に遊べる積み木コーナーを設置している。現在、熊本大学工学部と産業技術センター、(有)森商事が連携し、機能的な机の環境が大幅に

このようなことから、事業所・企業が求める情報の提供や、補助金申請のための助言、アドバイザー派遣などの支援事業を実施し、地場産業の振興を図っていくこととしていきます。

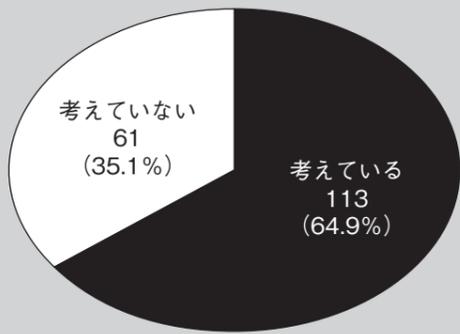
◆企業誘致

②天草の特性を生かした提案型企業誘致事業

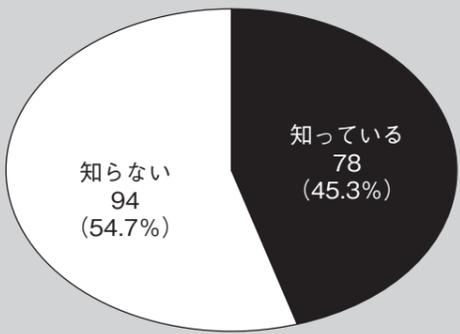
・1次産業が生きる1・5次産業誘致促進事業
天草の水産養殖業やかんきつ類・菜種油(菜の花プロジェクト)・つばき油の生産などの取り組みと、温暖な気候と天草の健康的なイメージを生かせる製造業などの誘致を図る。また、地元企業や住民などを対象に1・5次産業関連のセミナーを開催し、意識の高揚を図る。

身の経済人などとネットワークをつくり、企業誘致につながる情報を提供してもらおう。
・天草経済Newsの発行による情報発信:1,000人ネットワークのメンバーなどに天草への関心を持ち続けてもらうた

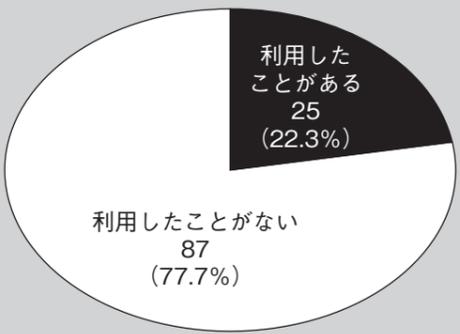
与える影響について研究に取り組んでおり、これに使う凹型の木製品の製作を(有)森商事が担当している。
「新しいこと」にチャレンジし、製品利用者の意識を変えたい。森社長は、自社の製品を全国に発信しながら、新たな可能性を日々探っている。



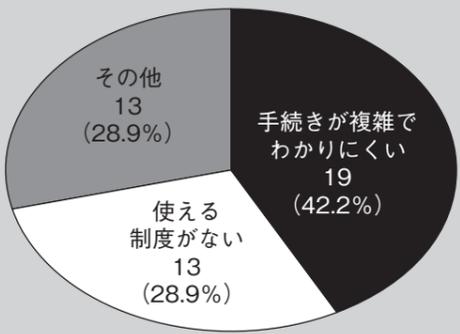
「新技術や新商品、新サービスなど」
①研究・開発への今後の取り組み



②研究・開発に取り組むための国・県の支援制度について



③国・県の支援制度の利用



④支援制度を利用しない理由

③ IT・サービス産業誘致のための受け皿整備事業

・コールセンター・ソフトウェア開発にかかる人材育成：パソコン操作や電話応対など、地元の人材を育成し、地元の人材を求職者として、より高度な研修会を実施する。

・Uターン者・潜在的Uターン者発掘による人材確保：天草地域産業・雇用創出協議会のホームページを活用し、天草地域外の勤務者やふるさと会・高校同窓会の会員への求人情報などの発信、潜在的Uターン者のリスト化と電子メールによる人材募集など、地元に戻って仕事をしたい人などのために、情報提供する仕組みをつくる。

◆地場産業の振興

① 地元企業コンシェルジュ（御用聞き）事業

・職員による巡回・相談・仲立ち：情報収集力が弱い小規模企業のため、市職員が企業を訪問して要望を探り、企業が求める情報などをわかりやすく提供する。また、必要に応じて国・県・関係団体などへの相談時などに同行する。さらに、補助金の申請方法などについて助言する。

・各種産業の実態調査：各種産業のさまざまなデータを収集・分析し、実態を把握するとともに、今後の施策を検討する。

② 地元企業のがんばる意欲応援事業

・アドバイザー往診事業：商品開発や販路開拓、経営改善の講習会やセミナーを天草で開催する。発や販路拡大、経営改善などを行うために専門家を派遣し、事業所・企業の新事業展開や業態転換を図る。

③ 天草の特性を生かした地場産業振興事業

「天草ブランド戦略策定事業」

がんばる地場企業
新たな取り組み③

株山田組
(建設業・五和町二江)

五和町二江に事務所を構える株山田組。現在の社長である丸山光徳さんの父親が55年ほど前に創業した。「建設業は、不景気のときでも昔

は仕事があったが、近年は公共工事の減少などで仕事がない」と、厳しい現状を語る丸山社長。何とか活路を見いだそうと、約8年前からマンゴーや海ぶどうなどの試験栽培を実施。それらの中からアワビを養殖することを決め、本業を行うかたわら平成15年に本格的な取り組みを始めた。現在、クロヤメガイなど4種のアワビを年間約4,000kg生産。長崎などから25mmほどの稚貝を仕入れ、事務所横



▲アワビの出荷作業に汗を流す社員

の施設内にある養殖場で2年半ほどかけ9〜10cm、80〜100gに成育したものを関西方面に出荷している。丸山社長は「水温管理に特に気を使う。海水を利用してため海水温の上昇などの不安があるが、設備を充実させるなどして対応していきたい」と話す。

がんばる誘致企業
これからの取り組み

武蔵株
(ITサービス業・南新町)

東京都港区にあるビルの一角に本社事務所を構える武蔵株（大田智一郎社長・深海町出身）。不動産向けのシステム開発などを手がける会社で、同社のシステム開発や顧客支援を行う開発サポートセンターが平成19年4月、誘致企業として本市に進出した。

この進出は、「生まれ育った天草に貢献したい」という大田社長の思いから実現。南新町にある事務所では現在、社員11人（うち天草の高卒者4人）が関東や関西向けの商品開発などを行っている。同センター商品開発部長の竹下勇さんは、「この分野は、作業環境さえ整ってい



▲開発サポートセンターで社員の作業状況を確認する大田社長（写真左）

れば、東京でも天草でも同じ仕事ができる。天草はリラックスできる環境で、仕事に集中できます」と話す。大田社長は「今後、できるだけ天草市出身の新卒者を採用し、20人程度の体制にしたい。また天草でできる新事業も展開していく予定」と抱負を語る。

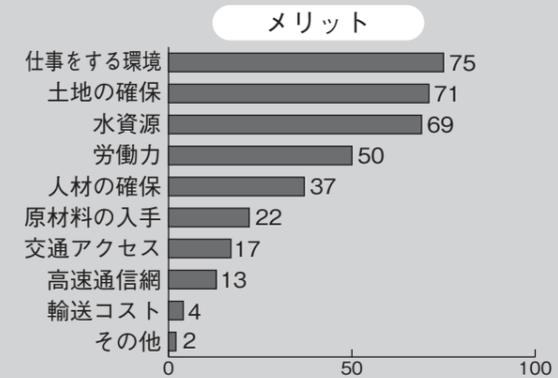
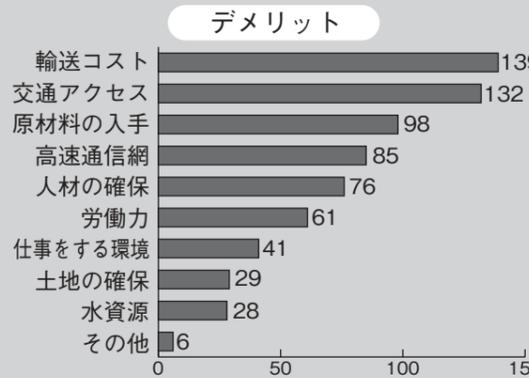
事業所・企業からの各種相談などを受け付けています。お気軽にご連絡ください。

天草地域産業・雇用創出協議会事務局（天草市役所本庁（別館）・商工観光課産業支援係内）

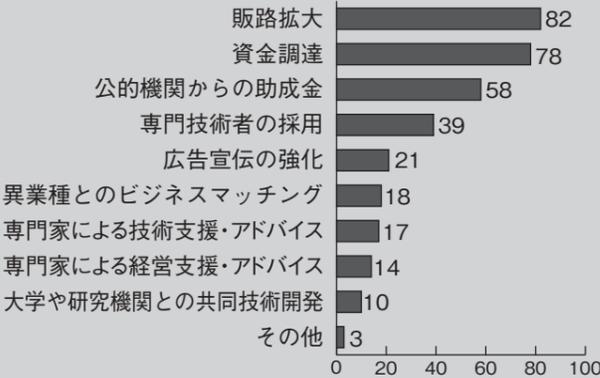
☎ 1111 内線2552

☎ 6787（直通）

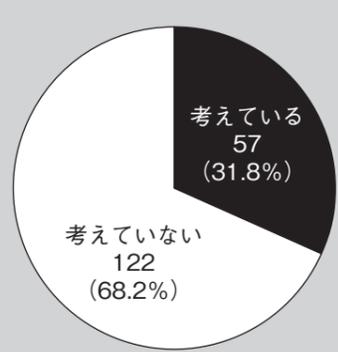
【電子メールアドレス】
sangyousen@city.amakusa.lg.jp



「天草での立地環境」
○天草地域に立地するメリット・デメリット（複数回答可）



② 今後の事業継続・拡大に必要なもの（3つまで回答可）



「事業所・企業の経営」
① 新規事業分野への進出・業態転換

行政改革の取組状況

平成19年度の成果と今後の計画

市では、「10年後の天草市を見据えた持続可能な行政運営の確立」を旨として、平成18年度から同22年度までの5年間を推進期間とする「第1次天草市行政改革大綱」などを平成19年2月に策定し、市民との協働による行政運営の推進など3つの基本方針を柱として、49の実施(推進)項目



▲8月6日に開かれた行政改革推進本部会議

については、10年後の天草市を見据えた持続可能な行政運営の確立」を旨として、平成18年度から同22年度までの5年間を推進期間とする「第1次天草市行政改革大綱」などを平成19年2月に策定し、市民との協働による行政運営の推進など3つの基本方針を柱として、49の実施(推進)項目

今回は、平成19年度の取組の内容・成果や今後の計画についてお知らせします。

平成19年度の

取組みの成果

行政改革の取組みをスタートして2年目となった平成19年度は、各種制度の制定や市税等の収納率向上などの成果が得られました。行政改革による効果額(9ページ表を参照)でも、歳入では市有財産の売却などにより1億5,026万円を確保。歳出では人件費2億6,600万円、物件費2億2,618万円(委託料を除く)を削減することができました。

しかし、予算総額の削減には至っておらず、なお一層、

行政改革を推進する必要があります。今後も、行政改革を着実に実行するため、行政改革推進本部長(市長)を中心に、目標達成に向けた取組みを進めていきます。

取組みの内容と

今後の計画

主な実施項目ごとの平成19年度の取組内容や、今後の計画は次のとおりです。

1 市民との協働による

行政運営の推進

・自立した地域づくりの促進
：29の地区振興会で「天草宝島マップ」を作成したほか、地域の自立と人材育成のための研修会や講演会などを実施しました。今年度は残りの14地区のマップづくりに取り組みとともに、

地域づくり活動の支援や情報発信などに取り組みます。政策形成における市民参画：「市民提案制度」と「パブリックコメント制度」を導入しました。今後はこれらの制度を活用し、市民の皆さんの意見を反映させた政策立案に努めます。・わかりやすい行政情報の提供：情報提供指針と出前講座実施指針を策定し、出前講座を25回実施しました。今後は策定した指針を広く周知し、わかりやすい行政情報の提供に努めます。

2 経営感覚を取り入れた

行政運営の確立

・財政運営の健全化：財政健全化計画を策定しました。今後は同計画に基づき、財政の健全化に取り組みます。・職員定員の適正化：定員適正化計画に沿った勸奨退職の実施と職員採用を行い、38人の職員を削減しました。今後も職員数のさらなる削減に取り組みます。

3 質の高い職員による

行政運営の確立

・公の施設等の使用料の見直し：公の施設の使用料・手数料について実態調査を実施しました。今年度は使用料・手数料の見直しに向け、条例改正などの準備を進めます。

◆平成19年度の行政改革による効果額 (※金額は万円未満を四捨五入)

項目	平成22年度までの目標	実績		行政改革による効果額			
		平成18年度	平成19年度				
歳入確保	①市税など	市税	92.5%	91.75%	92.49%	2億4,045万円	
		国民健康保険税	95.2%	94.96%	95.51%		
		介護保険料	99.1%	99.07%	99.14%		
	②保育料・使用料	収納率	保育所保育料	99.7%	99.67%	99.73%	47万円
			市営住宅	98.5%	96.50%	98.24%	1,288万円
			上水道	98.0%	97.02%	97.77%	5,947万円
			簡易水道	98.0%	97.67%	98.17%	
下水道	98.0%	97.62%	98.50%				
③市有財産の 利活用・売却	市有財産の売却	売却 26件 貸付315件	売却 39件 貸付332件		1億5,026万円		
④職員定員の適正化	普通会計職員数…1,000人	1,225人	1,187人		2億6,600万円		
⑤給与制度の 見直し	各種手当などの見直しによる 削減累計額…1億4,800万円	—	管理職手当の 見直し		1,278万円		
歳出削減	⑥物品管理	物件費予算の 年間削減額(委託料を除く) …2億5,500万円	25億5,159万円	23億2,541万円		2億2,618万円	
	⑦出張旅費・臨時 職員配置の見直し	出張旅費の見直し	—	860万円	610万円		
		臨時職員の削減	—	▲250万円			
	⑧第3セクターの 経営健全化	第3セクターへの指定管理 料…2,490万円→0円	2,490万円	3,060万円		▲570万円	
	⑨電算システムの構築	電算業務経費の削減累計額…1億円	1億772万円	8,948万円		1,824万円	

【行政改革による効果額の算定方法】

- ①②…平成19年度の収入額-(平成19年度の収入予定額×平成17年度の収納率)
 - ③…平成19年度の市有財産売却額+同貸付額
 - ④…職員の人件費×削減した職員数(人件費〔給与と共済費〕は1人当たり700万円として計算)
 - ⑤⑥⑦…平成19年度実績-平成18年度実績
 - ⑧…旅費制度の見直しによる削減額+臨時職員の賃金削減額
- ※①②の行政改革による効果額は、効果を表すために算定した額で、実際の収入額を比較したものではありません。
※⑤の同効果額は、管理職手当の見直しによる削減額です。
※⑦の同効果額は、⑥の同効果額にも含まれています。
※▲はマイナス。

・市有財産の利活用・売却：市有財産のうち39件を売却、332件を貸し付けました。今後は、市有財産の利活用推進計画の策定と、売却可能箇所の洗い出し作業を進めます。
・新たな収入源の開拓：広告取扱者を公募し、広報紙には平成20年6月号から、ホームページには同年7月から広告を掲載しています。
・給与制度の見直し：市税の徴収手当や差押手当、物件引揚手当、用地交渉手当などを廃止しました。今年度は、住居手当や通勤手当の見直しに取り組みます。
・補助金・負担金などの見直し：補助金・負担金の実態調査を実施し、補助金負担金交付基準について検討しました。今年度は同交付基準を策定し、補助金・負担金を見直します。
・物件費の抑制：出張にかかるとの廃止や引き下げを行いました。
・特別会計・水道企業会計の経営健全化：それぞれの会

計において、中期経営計画の策定に取り組んでいます。今後は、各会計ともに経営の健全化を目指し、使用料の見直しなどに取り組みます。

3 質の高い職員による 行政運営の確立

・職員的能力向上：国や県などへの派遣研修と、接遇リーダーによる職場研修を実施しました。
・人事評価システムの構築：目標等報告書および業務状況報告書の整備など、人事評価制度を見直しました。

行政改革大綱の進行状況の詳しい内容を記載した資料を、本庁・企画課や各支所・総務振興課、各出張所に備え付けていますのでご覧ください。また、市のホームページでもご覧いただけます。

※詳しいことは、本庁・企画課行政改革係 ☎1111 内線1322へお尋ねください。



▲海に親しんだ感想を書いた短冊を、紙風船に付けて、空高く飛ばしました(二江)

豊かな海をいつまでも大切に!

海べたエコエコウォーク

海の日(7月21日)、「海べたエコエコウォーク2008」が五和町で開催され、県内外から約200人が参加しました。この催しは、豊かな海に触れ、海の大切さを知ってもらおうと、五和まちづくり協議会(松下修二会長)が主催したものです。当日は、早崎瀬戸海域に面する御領・鬼池・二江の地区振興会が各地域の海岸を会場に、シーカヤック体験やウミガメの卵の観察、海の生態教室、貝がらなどを使ったクラフト教室などの海の特色を生かした催しや、海岸清掃を実施し、参加者は海の日(7月21日)を満喫しました。また、海に親しんだ感想を書いた短冊を、環境にやさしい紙風船に付けて空高く飛ばしました。数日後、大分県日田市天瀬町や山鹿市鹿北町などから、風船を受け取った返事などが書かれた温かい便りが届きました。



▲シーカヤックの乗船講習を受ける参加者(御領)



▲ウミガメの卵を観察(鬼池)

棒受網漁と海の幸を堪能!

いさり火探検

天草宝島観光協会・牛深支部主催の「いさり火探検」が8月2日と同14日の2回、牛深港沖合で実施されました。2日の同探検には約300人が参加。午後8時に漁場を目ざしてフェリーで牛深港を出港。漁場では、集魚灯で集めた魚を、潮の流れと水中灯を利用し、網の中におびき寄せ一網打尽にする「棒受網漁」を見学しました。船上では、牛深ハイヤ保存会による牛深ハイヤ踊りを楽しみながら、漁でとれた新鮮な魚のバーベキューを堪能していました。



▲迫力満点の「棒受網漁」を見学する参加者

小さな港から世界平和を祈る

教会の見える崎津みなとのフェスティバル

8月2日、「第20回教会の見える崎津みなとのフェスティバル」が崎津漁港広場一帯で開催されました。これは、地域の活性化を図ろうと同実行委員会(幸川壽之・委員長)が毎年開催しているものです。このイベントでは、世界平和への祈りが捧げられた後、餅投げや地元住民による崎津ハイヤ道中踊り、富津小学校の児童による和太鼓演奏などが実施されました。また、辺りが暗くなると、崎津教会のライトアップのほか、1,000発の花火が打ち上げられ、約3,500人の見物人を魅了しました。



▲力強いバチさばきを披露する富津小学校の児童の皆さん

真夏のビーチを満喫

砂月海水浴場祭り

7月27日、「砂月海水浴場祭り」が牛深町で開催され、家族連れなど約300人が各種イベントを楽しみました。この祭りでは、砂浜に埋められたカプセルを探して商品をもたらす「宝探し」やコーラの一気に飲み、スイカの輪投げが行われたほか、ビーチフラッグではスタートの合図とともに旗を目標けて猛ダッシュする出場者に、大きな声援が送られていました。また、タコのつかみ取りでは、網で仕切った海の中にタコが放たれ、参加者は吸い付いてくるタコに声をあげながらつかまえていました。



▲スイカの輪投げを楽しむ参加者

夏の思い出 in 天草 2008

厳しい暑さが続いた今年の夏、皆さんは何をして過ごしましたか? 市内各地では、さまざまな楽しいイベントが開催され、多くの皆さんが夏の天草を満喫していました。皆さん、たくさんの思い出をつくれたことでしょう。今回は、夏の天草で開かれた各種イベントのようすを紹介します。

天草ほんどの夏の夜を楽しむ!

天草子ハイヤ・花火大会

天草ほんどハイヤ祭り2008の催しの一つとして、「天草子ハイヤ道中総踊り」と「天草ほんど花火大会」がそれぞれ開催されました。

8月2日に本渡地区の中心街で開かれた「天草子ハイヤ道中総踊り」には、17保育園・幼稚園の園児ら約1,000人が参加。各チームおそろいの法被を着用した子どもたちは、コースに打ち水をした後、元気いっぱいのかわいらしいハイヤ踊りを披露しました。また、沿道では保護者らがカメラやビデオを手に、子どもたちを追いかけながら懸命に撮影していました。

翌3日には、「天草ほんど花火大会」が本渡港一帯で開催されました。同大会では、扇形の花火の上にたくさんの星形の花火が開く新作花火など7,000発の花火が天草ほんどの夏の夜空を鮮やかに彩り、見物人を魅了。短時間に多くの花火が打ち上げられたり、直径約400mの大玉花火が大輪の花を咲かせたりすると、大きな拍手や歓声があき起こっていました。

なお、天草ほんどハイヤ祭り2008のフィナーレを飾る「天草子ハイヤ道中総踊り」は、10月12日(土)午後1時から、天草市役所本庁～天草信用金庫本店(国道324号)のコースで開かれます。皆さん、ぜひお楽しみください。



▲子どもたちが元気いっぱいの踊りを披露!



▲7,000発の花火が夏の夜空を彩りました



▲山並敬司・支部長(写真右)から賞品を受け取る参加者

親子で釣りを楽しむ

～ファミリー釣り大会～

8/2
倉岳

8月2日、天草宝島観光協会・倉岳支部主催の「ファミリー釣り大会」が開催されました。これは、親子で釣りを楽しんでもらおうと、同支部が初めて実施したものです。大会には、福岡市などから6組24人が参加。当日は、午前6時に宮田漁港を出港し、宮田・棚底沖で釣り糸をたれ、1kg級のヒラメやマダイのほか、ガラカブヤベラなどを次々に釣り上げていました。なお、大漁賞には11.2kgを釣り上げた荒木裕司さんチーム(熊本市)が輝きました。



▲化石のクリーニング作業を体験する参加者の皆さん

恐竜の島で化石について学ぶ

～夏休み化石セミナー～

8/2・3
御所浦

8月2・3日、「夏休み化石セミナー」が御所浦地区で開催されました。今年で11回目の開催となる同セミナーには、小・中学生や家族連れなど県内外から46人が参加。同セミナーでは、御所浦白亜紀資料館で生きた化石などについての講話が行われた後、恐竜の化石が発見された弁天島や白亜紀の壁(地層)などを海上タクシーから見学。また、化石の発掘やクリーニング作業の体験なども行われ、参加者は熱心に取り組んでいました。



▲コーラを一気に流し込む子どもたち

約15,000人の人出で大にぎわい

～さざ波フェスタ～

7/20
有明

7月20日、四郎ヶ浜ビーチなどリップルランド一帯で「さざ波フェスタ2008」が開かれました。同フェスタ実行委員会(小林博光・実行委員長)の主催で、今年で15回目。晴天に恵まれた当日は、若者や家族連れなど約15,000人が訪れ、魚のつかみ取りやビーチフラッグ大会、コーラの早飲み大会のほか、有明町出身の演歌歌手・天草二郎さんの歌謡ショーなどを楽しんでいました。夜には海上から約1,000発の花火が打ち上げられ、夏の夜空を彩りました。



▲手びねりでの陶器づくりに挑戦!

伝統の技にチャレンジ!

～天草の伝統工芸品・制作体験講座～

8/3
本渡

天草文化交流館では、夏休み期間中の7月26日・27日、8月3日・9日、市内の小・中学生とその保護者を対象に「天草の伝統工芸品・制作体験講座」を開催しました。8月3日には天草陶磁器の講座が開かれ、10組29人が参加。天草陶輝会会員の手助けを受けながら、手びねりによる陶器づくりに挑戦しました。本渡北小学校2年の益田美咲さんは、「思うような形にならず難しかったけど、とても楽しかった。今日のことを絵日記に書きたい」と話していました。



▲白熱した試合を展開する剣道競技

親交深める真夏の熱戦!

～三地区親善体育大会～

7/20
牛深

7月20日、「第56回三地区親善体育大会」が牛深総合体育館などで開催されました。この大会は、歴史的なつながりを持ち、地理的にも近い本市と鹿児島県阿久根市・長島町の3地区の親交を深めることを目的に毎年実施されているものです。今年の大会には、バレーボールや卓球、ソフトテニスなど13種目に約500人が参加。各種目で熱戦が繰り広げられ、総合優勝には剣道、野球、男子・女子バレーボール、囲碁の5種目を制した本市が輝きました。



▲元気にプレーする子どもたち

猛暑の中 熱戦を展開!

～市子ども会球技大会～

8/3
新和

8月3日、市子ども会育成連絡協議会主催の「第3回天草市子ども会球技大会」が、新和グラウンドや新和体育館などで開催されました。大会には、男子のソフトボールに25チーム390人、女子のビーチボールバレーに43チーム372人が参加。猛暑の中、熱戦を繰り広げました。なお、優勝はソフトボールが深海子ども会(Aブロック)と久玉子ども会(Bブロック)、ビーチボールバレーが浅海子ども会(Aブロック)と茂串子ども会(Bブロック)でした。



▲高さ12.6mの旗ざおを1人で抱えて時間を競う参加者ら

青空になびく色鮮やかな吹き流し

～虫追い祭り～

7/20
河浦

一町田地区振興会(宮本春志会長)主催の「虫追い祭り」が7月20日、一町田小学校グラウンドなどで開かれました。高さ12.6mの竹に、長さ約3mの吹き流し約20枚を付けた旗ざおを1人で抱えて時間を競う競技や、旗ざおを頭や肩、あごに乗せる演技などが行われ、観客から大きな声援が送られていました。また、虫追い音頭の制作披露のほか、虫追い旗をあしらった手作りTシャツや河浦高校の観葉植物などの販売も行われ、会場は大にぎわいでした。



▲ホストファミリーの皆さんなどと記念撮影

生活習慣や文化の違いなどを体験

～市内の中学生らがエンシニタス市を訪問～

市内の中学生6人と英語教師が、7月25日から8月3日まで姉妹都市の米国エンシニタス市に派遣されました。今回派遣されたのは、中学3年の平野洋一郎さん(本渡)、松岡智美さん(栖本)、藤川美咲さん(倉岳)、碓子純子さん(新和)、吉本サヨリさん(御所浦)、2年の藤田海法さん(稜南)と金子晴美教諭(本渡)。ホームステイをしながら、生活習慣や文化の違いなどを体験したほか、中学校の授業などに参加し、エンシニタス市の人たちとの交流を深めました。



▲「おかげさま、おたがいさま、もったいない」の気持ちが大切と語る辻駒健二氏

先進地の地域づくりを学ぶ

～日本の宝島“天草”づくり講演会～

7月31日、「日本の宝島“天草”づくり講演会」を天草市民センターで開催し、各地区振興会の役員など約300人が参加しました。「誇りと夢の持てる地域づくりを目ざして」と題して、安芸高田市高宮町・川根振興協議会会長の辻駒健二氏が14年にわたる地域づくりの成果を紹介。辻駒氏は、地域づくりを進めていくうえで「自分自身がここに生かされていると思えることや、住民自治は自分たちで自分たちのことを決めることが大切」などと話されました。



▲ずらりと並んだ作品に見入る来場者

童謡・童話著作集など約150点を展示

～天草ロザリオ館特別展「白秋童謡展」～

8月1日、天草ロザリオ館で「白秋童謡展」が始まりました。北原白秋は、「五足の靴」一行のメンバーの1人として天草を旅し、南蛮文学の代表ともいえる『邪宗門』を発表。数多くの詩や短歌を発表し、詩聖とも呼ばれた人物です。館内には、童謡著作集の“トンボの眼玉”や“花咲爺さん”のほか、童謡の直筆原稿(複製)や児童文学雑誌“赤い鳥”など約150点の作品が展示されています。同童謡展は9月30日㊤まで開催。皆さん、ぜひご覧ください。



▲慎重にコースを進む山下美奈子さん

山下美奈子さんが全国優勝!

～二輪車安全運転全国大会～

第41回二輪車安全運転全国大会が8月2・3日、三重県鈴鹿市で開催され、女性クラス(50cc)で河浦町久留の山下美奈子さんが優勝しました。同クラスには、各都道府県予選を勝ち抜いた47人が出場。山下さんは2回目の全国大会出場で、毎日2時間の練習を重ね、その成果を発揮し栄冠を手に入れました。山下さんは、「目標としていた大会で優勝できてうれしいです。これからは、高校生の指導や育成に生かしていきたい」と、笑顔で話していました。



▲大勢の買い物客でにぎわいました

旬の野菜、果物などがずらり!

～「高浜青空市」始まる～

8/3
天草

8月3日午前7時から、旧天草支所庁舎跡地で「高浜青空市」が開かれました。この青空市は、旧庁舎跡地を利用して高齢者の生きがいをづくりや地域の活性化を図ろうと、高浜地区振興会(松本由一会長)が実施したものです。当日は16軒が出店し、旬の野菜や果物、海産物などを販売。会場に訪れた約200人は、和気あいあいと話しながら品定めをしていました。高浜青空市は、毎月第1日曜日に実施されます。皆さん、ぜひお出かけください。



▲平和への思いを記した短冊を飾る来場者

平和な世界を願って!

～御領平和祈念祭～

8/9
五和

8月9日、終戦記念日を前に「御領平和祈念祭」が五和町御領の招魂場で開かれ、約200人が参加しました。同祈念祭は、御領地区の戦没者慰霊と世界平和を願うため、御領まちづくり振興会(永田章一会長)が初めて実施。会場周辺は、竹灯りなどでライトアップされ、児童による平和祈念作文の朗読や、歌手で詩人の真柄征侑さんによる平和の祈りコンサートが行われました。また、来場者は平和への思いを記した短冊を笹に飾り付け、世界平和を願いました。



▲すしのかっぱ巻をイメージした「へのかっぱ巻」

かっぱの町の新名物・第3弾誕生!

～和菓子「へのかっぱ巻」発売～

8/10
栖本

8月10日、へのかっぱ携帯ストラップ・お守りに続く、栖本の新名物第3弾「へのかっぱ巻」が誕生しました。これは、すしの“かっぱ巻”に見立てた和菓子で、天草晩柑を使ったようかんを紫芋のあんで包み、それをタルトで巻き、さらに黒ゴマのもちで巻いたもの。ようかん・あん・もちに抹茶を使ったものもあります。「へのかっぱ巻」は、栖本温泉センターなどで購入できます。詳細は栖本まちづくり協議会事務局(栖本支所・総務振興課内)☎663111へ。



▲成人者宣誓をする新成人代表の矢田珠穂子さん

真夏の新成人の誓い

～牛深地域成人式～

8/16
牛深

8月16日、「牛深地域成人式」が牛深総合センターで開催され、新成人170人が浴衣姿などで出席しました。同地域では毎年、お盆の帰省時期に成人式を開催。式典では、安田市長が「日本の宝島“天草”を築く、大きな力になってください」とあいさつした後、新成人を代表して矢田珠穂子さんが「社会人としての責任を胸に、勇気と信念を持って行動します」と宣誓しました。式典終了後は、友人と話したり写真を撮ったりと、久しぶりの再会を楽しんでいました。



広場

市長随筆



高校生の活躍に感じる 若い力の可能性

今年の夏は、北京オリンピックでの日本人選手の勝敗に一喜一憂しましたが、国内でも各種スポーツ大会が開かれ、本市にとってうれしい話題がありました。

埼玉県で開催されたインターハイの陸上競技1500mで、佐伊津中学校出身の佐藤優太さん(熊本工業高校3年)が、県大会での記録を10秒も縮め、外国人留学生に次ぐ日本人トップの2位入賞。さらに、牛深高校3年の加世田強真さんがやり投げで、天草西校2年の高原康幸さんがウエイトリフティング競技77kg級でそれぞれ3位に入るなど、本市出身の高校生が全国の舞

台で大活躍してくれました。

また、河浦高校軟式野球部の皆さんは、春の九州大会優勝報告のときに約束してくれたとおり、夏の南九州大会でも見事優勝を果たし、兵庫県で開かれる全国大会への切符を手に入れました。チームワークのすばらしさに加え、地域の方々の日ごろの応援も大きな力になっているようです。

この市長随筆を皆さんが読みになるころに、河高軟式野球部の皆さんが優勝報告に来てくれることを期待しながら、若い力の可能性の大きさというものを感じています。

天草市長 安田 公寛



竹元 幸康 さん (栖本町馬場・24歳)

高校卒業後、東京のプラスチック製造メーカーに勤めていましたが、2年ほど前に帰郷。現在、市内のスーパーで働いています。今年4月、地元の青年団に加入。これから、伝統ある栖本太鼓踊りの練習が始まります。11月9日(日)に開かれる栖本諏訪神社大祭でデビューできるよう、精一杯がんばります！



亀口 ミエノ さん (御所浦町横浦・90歳)

—— 毎日の楽しみは？
花などの植物を育てていますが、日々成長する草花を見ることが楽しみです。



また、大好きな演芸を見たり、踊ったりすることや、近所のお友だちと笑って会話することも楽しみの一つですね。

健康の秘訣は？

とにかく、毎日を動かすことを心がけています。また、趣味などの楽しみや生きがいを持つことと、周りの方々に感謝の気持ちを持って過ごすことが大切だと思います。



プール遊びが大好きな、ゆり組(2歳)とさくら組(3~5歳)の園児たち

心身の健やかな成長を目指して

下浦保育園

暑い日が続く中、園児たちは屋外で元気にプール遊びを楽しんでいます。

下浦保育園(唐津淳子園長・全園児41人)では、「元気で明るく素直な子ども」を保育方針に掲げ、園生活の中で多くの経験を通じて、「素直な心で、反省と感謝することのできる園児」の育成を目指しています。

8月6日には、「交通安全教室」を行いました。三輪車を車に見立て、園児がドライバーと歩行者に分かれ、先生から歩行者用信号機での横断歩道の渡り方を教えてもらい、左右を確認してから手を上げて渡りました。11月からは虫歯予防のため、フッ素化合物を使った「ブクブクうがい」に取り組むことにしています。

なんでも食べて 元気な子どもに！

深海保育所

深海保育所(矢田博子所長・全園児22人)では、「食べることの大切さを知り、楽しく食べる」を目標に、毎月1回行うクラスごとのクッキングや、食育に関するお話や遊び、菜園活動などに取り組んでいます。畑には、ジャガイモやサツマイモ、大根、たまねぎ

などを栽培しており、年長組の子どもたちは暑い日も毎日、水やりをしたり、草引きなどをしてたりしてがんばって育てています。今、スイカが5個大きく育っており、収穫後のスイカ割りを楽しみにしているところです。きゅうりもブロッコリーもトマトも、給食に毎回入っている牛深の「めざし」も、いりこも、もりもり食べて、元気いっぱいの子どもに育ててほしいです。



野菜も魚も大好きな子どもたち。元気に大きくなあれ！



九州大会出場を果たした吹奏楽部の皆さん

ともにひびき ともにかがやく北っ子

本渡北小学校

本渡北小学校(益田悦郎校長・全校児童727人)では、『ともにひびき、ともにかがやく北っ子』を教育目標に、運動や音楽に親しみ、人を大切にする、礼儀正しい子どもを育成しています。子どもたちは、「元気の花」「がんばりの花」「なかよしの花」の3つの花を大きく育てることを目指し、近隣の幼稚園・保育園の園児とのさまざまな交流活動や、民生児童委員の皆さんとのコマの色付けなどの体験活動に取り組んでいます。部活動では、7つの部が天草郡市大会などで上位の成績を収めるなど活躍しています。中でも、吹奏楽部は5年連続で九州大会出場を果たしました。これからも「心はずむ北小」を合い言葉にがんばります。

学校のわたくしの自慢

受け継ぎながら進化する マリニフェスタ

倉岳高校

倉岳高校(岡崎佳子校長)は、全校生徒52人の小規模校ですが、大規模校に負けないくらい元気で明るい学校です。本校の特色ある取り組みの一つに、えびすビーチで毎年開催する「マリニフェスタ」があります。今年で11回目となる同フェスタは、全国的にも

珍しい海の運動会で、ビーチフラッグやいかだレース、ミニトライアスロンなどを実施。今年には新競技を加えるなど、先輩方からの伝統を受け継ぎながらも年々進化しています。また、同フェスタを通して地域の皆さんとの交流も図っています。来年度から天草高校の分校となりますが、この伝統あるマリニフェスタは、今後も大切に後輩たちへ引き継いでいこうと思います。



マリニフェスタの成功に喜ぶ生徒の皆さん



きら煌めく人々たち

「癒しの島の魅力を堪能してほしい」

木口宝光 さん (五和町二江・44歳)

五和町の通詞島周辺で、地元漁師がガイド役になり、魚釣りや釣った魚の調理、イルカウォッチングなどを楽しんでもらう「通詞島体験倶楽部」が7月19日にスタート。漁船で釣り客を漁場に案内し、釣りの方法などをアドバイスする遊漁船業などを営むかたわら、同倶楽部の実行委員会代表を務めている。

「最近、親が子を殺す、子が親を殺すという悲惨な事件が相次いでいる。親子が触れ合う機会をつくるのができないか」「遊漁船業のノウハウと通詞島の豊かな自然を生かして、地域の活性化を図れないか」と思ったことが、同倶楽部を始めたきっかけ。

「通詞島は人に安らぎを与える癒しの島なんです。多くの人に島の魅力を堪能してほしいですね」と微笑む。



▲炭切りの作業に汗を流す“ひま陣会”のメンバー

地域づくり コーナー

人が動く 地域が動く 天草が動く

木炭づくりを受け継ぎ、地域の活性化を

新和・碓石地区では昭和47年ごろまで、主な産業として木炭づくりが行われていました。この作り方を知っているのは、現在の70代以上の人たち。同地区振興会では、木炭生産の技術継承や環境美化などを目的に、60〜80代の有志による「ひま陣会」を結成し、昨年9月から木炭づくりに取り組んでいます。「ひま陣会」とは、「心のひま(ゆとり)を地域に提供する人たちの集まり」という意味を込めて命名。現在、15人で活動しています。

同会では、碓石公民館近くに炭窯「ひま陣工房」を作り、これまでに8回の木炭づくりを実施。1回当たり約450kgを生産し、その一部は水質浄化を図るため碓石川に投入しています。また、炭焼きの

ハッピーバースデー

1歳になります



本崎 花音 ちゃん

新和町小宮地
平成19年9月14日生
父・健太さん 母・美幸さん
リズムにあわせて、ふりふりダンスをします。みんな大好き♡



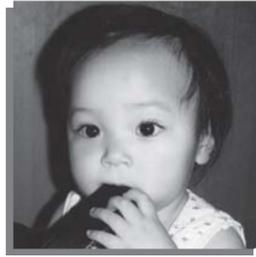
福部 孔太 くん

御所浦町御所浦
平成19年9月25日生
父・智一さん 母・菊美さん
お兄ちゃんたち、これからもヨロシクね♡



黒田 愛 ちゃん

八幡町
平成19年9月28日生
父・賢三郎さん 母・美和さん
じいじ、ばあばいつもありがとう♡みんなに愛される人になるからね。



濱 莉奈 ちゃん

電場町亀川
平成19年9月5日生
父・栄助さん 母・文子さん
人見知りしないので、みんなにかわいがられています。



小手 苺 ちゃん

東町
平成19年9月25日生
父・貴弘さん 母・美生さん
たっくさんの愛情に包まれて、笑顔いっぱい幸せ者です♡



井戸 みやび ちゃん

天草町大江
平成19年9月25日生
父・栄造さん 母・育美さん
輝耶お姉ちゃんには負けないよ!!

10月で満1歳になるお子さんを募集します!

- 応募期限=9月10日(※)まで(必着)。
- 応募方法=写真裏にお子さんの住所、氏名(ふりがな)、生年月日、性別、電話番号、コメント(30字以内)、保護者名(父・母)を記入し、〒

863-8631(住所記載不要)天草市役所秘書課へ郵送または持参してください。なお、写真はお子さんが大きく、鮮明に写っているものをお願いします。また、写真の掲載は6人まで(応募者多数の場合は抽選)とし、応募写真は返却しません。



河浦病院 院長 永吉 正和

病院局だより

河浦病院

河浦病院に勤務して6年半が経過しました。着任当初、病院給食に刺身が出されていたことには驚きました。また、ご飯もおいしく、調理係に聞くと「地産地消を心がけています」とのこと。「身土不二」「フードマイレージ」という食に関する言葉があります。身土不二は仏教用語で、山下惣一著『身土不二の探求』では、「人の命を支えているのは食べ物である。食べ物は土が育てる。従って土が人の命、命は土そのもの、すなわち身土不二、身と土は一体という考え方です」。

これからの「病む人へ思いやりと優しさ」という病院理念の下、食の安全や地球環境に配慮しながら、各病院・診療所との連携を深め、住民の皆様の健康を支える一端を担っていきたくと考えています。よろしくお祈りします。

輸入食料は、長距離輸送によるエネルギーの消費と二酸化炭素の排出を増大し、生産国の資源、環境にも悪影響を与え、地球環境の負荷になるとされています。この2つの言葉は詰まるところ地産地消、食の安全に行き着くようです。さて、河浦病院は昭和22年、一町田村診療所として発足し、同30年代には当時、猖獗を極めた結核病に対応するためのベッド86床を有したこともありました。その後、疾病の変遷と時代の流れの中で、現在は療養病棟を持つ一般病院として内科、小児科、外科、整形外科、リハビリテーション科を設置しています。

【編集発行】

熊本県天草市役所
 総務部秘書課広報広聴係
 〒863-8631 天草市東浜町8番1号
 TEL 0969-23-1111
 FAX 0969-22-7016
 URL <http://www.city.amakusa.kumamoto.jp/>
 E-mail hisuyoka@city.amakusa.lg.jp



ロシアの名バレリーナ「アンナ・パブロワ」は、「立ち止まることなく一つの目的を追い求めることが、成功するための秘密です」と言っています。北京五輪で頂点を目ざす選手の姿に、その言葉が重なります。がんばる姿こそ価値がある！たゆまぬ努力に感動。【空】

「高校野球」では、応援団の曲に必ず『狙いうち』が流れます。投手の球を狙い打つという思いを込めての応援です。私にとっては舞台上で歌う持ち歌。最近、腰周りが気になりだしたので再デビューも考えています。ただ勢いづくともう『どうにもとまらない』。【凡】

北京オリンピックの陸上男子100mで、ジャマイカのウサイン・ボルト選手が9秒69の世界新記録を樹立。人類の限界が9秒6台と言われてきただけに、ラスト20mを流さず真剣に走っていたのだろう。彼の今後が楽しみです。【走】

暑い日が続いていますが、皆さん、体調など崩されていませんか。私はこの夏、体に異変が…。頭や顔、背中から異様なほど汗をかくようになりました。何でだろうと同僚に話すと「それ、老化現象ですよ」と一言。まだ33なのに…。もしかして、もう33なのかな？【松】



レンズの奥に見える
宝島のキャンパス



日本の原風景が楽しめる“キャンプ場” Vol.31 天草町福連木

周囲を緑に囲まれ、日本の原風景が広がる天草町福連木に、「福連木子守唄公園オートキャンプ場」が整備されています。天草初の本格的なオートキャンプ場で、炊事場やトイレ、シャワーなども完備。近くに遊具などを備えた公園もあり、山里ならではの、ゆっくりとした時間を過ごすことができます。秋風が吹き抜けるこれからの季節が、絶好のキャンプシーズン。家族や友だち同士で、楽しんでみませんか。



「栖本太鼓踊り」(栖本町)

栖本太鼓踊りは、天草各地に残る伝統芸能の中で、特に「舞いの構成が美しい」といわれる芸能です。江戸時代に始まったといわれるこの踊りは、文化3(1806)年ごろ、古江村(現在の栖本町古江)の太鼓打ち名人が、今に残る勇壮で絢爛な太鼓踊りの原形をつくったとされています。

赤い法被はっぴに白の鉢巻はちまき、手には手甲てがま、脚には爪付脚絆つめつききゃはんといういで立ちの踊り子たちが披露する、華麗で、躍動感あふれるパチの

舞いが1番の見所です。天草の伝統芸能では唯一、県の重要無形民俗文化財に指定されており、毎年11月に開かれる栖本諏訪神社の大祭で奉納されます(今年は11月9日㊿に実施)。



▲県指定重要無形民俗文化財
 「栖本太鼓踊り」